MARITIME　INTERNATIONAL 2017 第３号 平成 30 年３月 19 日

〈東京都立大島海洋国際高等学校　　TEL:04992-4-0385　FAX:04992-4-1764〉

メールアドレス：kaikoku@section.metro.tokyo.jp

HP アドレス：http://www.osima-kaiyokokusai-h.metro.tokyo.jp/index.html

カメリアマラソン大会

今年は２月 11 日にカメリアマラソン大会が開催されました。大島海洋国際高校は、毎年この町の大会に学校行事として参加させていただいています。当日は天候にも恵まれ、生徒たちは気持ちよく走ることができたのではないか思います。

生徒の皆さんお疲れ様でした！今大会について簡単にまとめてみたいと思います。

まず、男子の部（10 ㎞）では、優勝は下級生に譲ったものの、１年生として参加した昨年の大会で入賞を果たした３選手が、貫禄の走りを見せ上位入賞を果たしました。また、昨年は入賞に届かなかった２選手も入賞を果たすなど、２年生が１年間授業や部活を通して積み重ねてきた努力の成果を垣間見ることができました。１年生はというと、初めてのマラソン大会でコースや雰囲気もわからない中、入賞者が５人と大健闘を果たしました。男子の結果を部活動別に見ると、男子では陸上部、バスケットボール部、サッカー部、セーリング部、野球部、カッター部などの生徒が 1～2 名ずつ入賞しました。

次に、女子の部（5 ㎞）では、入賞者全体を見ると、１年生が上位 10 名中８名を占める形となり、フレッシュな力に押された形となりました。しかし、昨年優勝経験のある２年生が優勝を勝ち取り２連覇、また、昨年入賞経験のある選手も上位に入り、「下級生には負けたくない！」という上級生としての意地を感じることができました。女子の結果を部活動別に見ると、潜水部、音楽部などの生徒が入賞を果たしましたが、入賞の過半数（10 名中８名）が潜水部という結果になりました。

なお、女子の部で校内優勝の２年生吉田百花さん、校内準優勝の１年生長濱ひらりさんは、カメリアマラン大会女子一般の部（5 ㎞）においても上位入賞を果たし、表彰をされました。おめでとうございます。

以上の結果からもわかるように、全体的には２年生が１年生の“勢い”に押された大会になったようです。しかし、１年生、勢いだけでは限界があります。来年の大会に向けて授業や部活などを通して、できることを積み重ねていくことを忘れないでください。今に満足して怠惰な態度で生活を送ったとしたなら、今年上級生としての“意地”を見せてくれた２年生に追いつくことはできないでしょう。１年生は、こうした行事で力を発揮するという、大島海洋国際高校の良き伝統を継承し、来年の大会でさらなる飛躍を遂げてください。

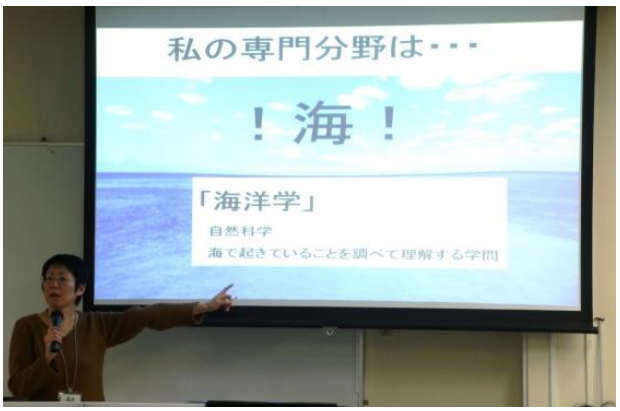
最後になりますが、今大会の運営に携わった運動委員のみなさんお疲れ様。君たちの活躍なくして、体育行事のスムーズな運営はあり得ません。本当にありがとう。一般生徒も、こうした行事の陰には、運動委員のような人たちの働きがあることを絶対忘れないでください。

（生活指導部：体育科　増子　良太）

東京海洋大学との高大連携特別講義

１月 22 日（月）の午後、東京海洋大学海洋資源環境学部の川合先生に１年生対象の特別講義をしていただきました。内容は、大きく４部構成でした。

１つは、導入として今日の話す内容の概要について簡単に説明していただきました。「海洋学」「研究とは」「船内生活は楽しい」「人生で気づいたこと」をキーワードとした話題です。



２つめは、研究者としての今の自分がどのような選択や経験を通して作られてきたかのキャリアに関するお話でした。小学生の時にあこがれたノルウェーに行くため寒い土地に興味がわいた。高校時代は「リケジョ」で、少ない女性の同級生と苦手な物理を担当の先生に無理やり補講を頼むくらい勉強に打ち込んだ話、広島から寒さに慣れるために北海道の大学を選んだが、入試に失敗して希望とは別の学部に行くことになってしまった。しかし、先生はどうせ学ぶなら実習船で外洋に出て、「寒い海の研究をやりたい」という思いから海の化学について研究を始めました。研究をすると、「海ってすごい！地球にとって大事な存在であり、知れば知るほど面白い！」と夢中になってその道に進んだそうです。

３つめは、海外での生活です。博士課程後に教授に「アラスカ行く？」と言われてすぐに「行きます！」と返事して次の進路を決めたそうです。実は、その話には大きな決断もあったそうで、当時付き合っていた彼氏と決別になるかどうかの話になったそうです。結局は、結婚してアラスカ行きになりました。アラスカでは、研究活動もそれ以外にも釣り（キングサーモンを釣った写真も紹介）、クロスカントリー、オーロラ観察、ログハウス生活と自然の中で有意義な時間を過ごされたそうです。困ったこともあり、苦手な英語がなかなか上達しなかったことも紹介されました。発音が悪く通じない、言葉がわからなくて話す機会が減るとますます理解できなくなるという実体験も話してくれました。その後、カナダのビクトリアへ移動され、そこでもカヌー、アザラシなどの野生動物観察などを楽しみながら北極海への国際共同観測へ参加し、かの有名な『ネイチャー』『サイエンス』※への論文投稿も果たされたそうです。

４つめは、研究活動についてです。北極海での定期調査は、北の果ての町まで飛行機を乗り継ぎ、カナダの沿岸警備隊の砕氷船に乗って調査しています。また、反対側南極、身近な東京湾の観測についても行っているそうです。そして、現在取り組まれている研究「海洋の酸性化」について、実際のデータを交えて、温暖化と並行してこの問題に取り組まなければ数十年後、海産物を食べられなくなるかもしれないことを寿司ネタに例えて説明し、その研究の重要性についてわかりやすく解説してくださいました。

最後に、皆さんへのメッセージとしていくつか教えてくださいました。

・先のことはわからないが、心が動く・好きな道を選択すると後悔はなくなる

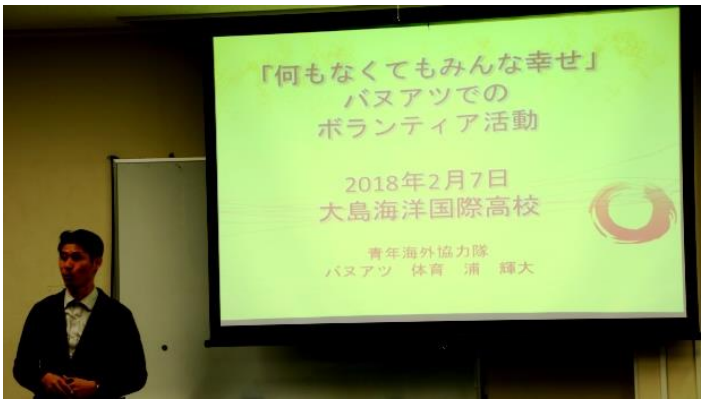
・高校時代に海や船について学ぶことは大切で、化学・生物・物理など様々な分野がつながっていることが理解でき、広い視野を持つことができる。だから、いま学んでいることに誇りを持つべき

講義の後、質問時間がありましたが、なんと、７名が講義内容について質問しました。

※世界の科学者が目指す、論文の最高峰（最高ランク）。　（進路指導キャリア教育部：水産科　倉澤　聡）

『国際』に関する進路講演会

２月７日の午後に、２年生対象で『国際』に関する講演会を開催しました。講師は、体育系の大学卒業後に、青年海外協力隊として太平洋の島にあるバヌアツ共和国に２年間赴任された経験のある「浦　輝大（うら　てるひろ）」氏に依頼しました。バヌアツという異国の生活から得た異文化理解に関する話題と高校時代に勉強面で苦労した話の２本立てでした。



私の予想では、午後の眠い時間、ぼやーとした国際、ましてや聞いたことがない異国のバヌアツの話題であると生徒の関心がもつかどうか心配がありました。しかし、講義が始まると寝ているような生徒はなく、生徒は講師の方のクイズや質問を真剣に考え、自分の意見をきちんと伝え、話に耳を傾けました。講演会の後、「都内で講演を行ってきたが、ここまで自分の意見をまとめ、はっきりと話してくれたことはない、びっくりです」と嬉しそうに話してくださいました。

講義内容について、特に日本人との考え方や生活の違いについて興味深い話をしてくださいました。いくつか紹介します。

芋が主食で、芋の一部を再度畑に埋めれば数か月後にはまた芋ができる・１年中フルーツがたくさん実る（マンゴー、パパイヤ、バナナそれぞれに旬の時期がある）食べ物に困らない生活、電気のない生活だがおしゃべりをしたりして楽しい時間を過ごす、村は「チーフ」がまとめていて『権力』ではなく食べ物の分配等をする「長」の役目の人がいる、お金に縛られない生活なので平均労働時間は日本の数分の１程度である。

「異文化理解の三段活用」として、自分と異なる文化を面白いと肯定できる人物がその人の人生を豊かにしてくれるので大事な感性である。これは何も異国だけの話ではなく、日本での生活についてもいえる（方言、考え方など）。

ボランティアの心得として、クイズ形式で「困っている人々が持続的に自立する方法は？」を考えました。生徒からは、相手の自立を促すことのできる現実的な意見が沢山発表されました。これは本校の寄宿舎生活や国際に関する話を聞いた効果かもしれません。他には、国際協力とは、物を与えるだけでなく、100 年後の現地の人々の幸せを考えた案が必要であると教えてくれました。

隊員としての失敗、自分の国の価値観を押し付ける、自己満足を充実させるだけでは意味がない、隊員は言語の壁から引きこもりや「うつ」になりやすいとも経験談を語ってくれました。

最後に、現地の子供やチーフ、景色などを音楽に合わせて私たちに伝え、ボランティア精神を教えてくれました。「挨拶から始まるボランティア」「日本人が幸せになる事～自分は無理せず、相手に求めない→そこから幸せや平和が生まれる」　（進路指導キャリア教育部：水産科　倉澤　聡）

第 10 回卒業証書授与式挙行

平成 30 年 3 月 4 日に第 10 回卒業証書授与式を挙行しました。A組（国際系）38 名、B組（海洋系）40 名の計 78 名が卒業しました。

大島町町長 三辻利弘様はじめ 29 名の来賓､多数の保護者・家族の御列席のもと、厳粛な式典となりました。前生徒会長の高沼優気君が答辞を述べました。

式後、出帆港での見送りも晴天に恵まれ穏やかな出港でした。

竹芝桟橋においても、多数の先輩方の出迎えがあり、卒業生にとって大変思い出深いものになりました。

表彰状授与

卒業証書授与式に先立ち、前日の 3 月 3 日、表彰状の授与を行いました。
表彰者は次の生徒諸君です。

東京都体育協会表彰　体育優良生徒　　植木　志遠　・　今西　さくら
東京都高等学校文化連盟表彰　文化活動優良生徒　　平塚　淳浩
財団法人産業教育振興中央会賞　　福田　祥太
東京都産業教育振興会賞　　柳田　有斗
全国水産高等学校長協会賞　　加藤　巧己
東京都青少年赤十字メンバー卒業表彰　　小林　あおい　・　加藤　愛萌
高校生新聞社賞　　高沼　優気
東京都高等学校野球連盟 硬式野球選手表彰者　　浜野　健太

三か年皆勤賞	A組	加藤　愛萌	・	小林　泰喜	・	鈴木　千絵
（１５名）		関口　諒	・	高沼　優気	・	瀧口　金太郎
		寺本　愛乃	・	原武　珠梨	・	増子　有馬
	B組	岡田　晃土	・	加藤　巧己	・	河野　幹太
		野間　憲	・	野間　駿介	・	山田　龍
三か年精勤賞	A組	今西　さくら	・	金澤　祐大	・	川瀬　航平
（２２名）		高橋　杏	・	浜野　健太	・	福嶋　なな生
		増谷　直之	・	渡邊　珠絵		
	B組	今井　和真	・	植木　志遠	・	太田垣　匠
		嘉津　一王	・	亀田　健太	・	岸本　隼太
		齋藤　哲	・	平　珠生	・	髙石　睦月
		田窪　将行	・	田中　幹人	・	田部　創汰
		中村　菜々美	・	山元　るりは		

（総務部：水産科　今西　弘憲）